

「鮎鯨街道を行く 2009夏」

岐阜大学教育学部附属小学校

作成のきっかけ：尾崎君は、普段から社会科の学習に意欲的に取り組んでいます。おじいさんから鮎鯨街道の話聞いた尾崎君は、この街道についてももっと知りたい、自分の目で見てみたいと考え、昨年の夏休みの課題として地図をつくりました。

作品について：尾崎君は地図の作成にあたって、実際に鮎鯨街道を自転車で走り、自分の目でさまざまな事実を確認しました。そして集めた情報をもとにして、土地利用の変化をわかりやすく表現するために、白地図をていねいに色分けして、その特徴を正確にとらえました。さらに、年代ごとの土地利用図を重ねて貼り比べることによって、鮎鯨街道があることで街が発展し、伝統文化が今も受け継がれていることについて考えを深めることができました。

児童の反応：夏休み作品発表会の際、尾崎君は鮎鯨街道について調べた事実や、その結果わかったこと、考えたことを説明しました。学級のみならず発表を通して、普段なにげなく過ごしている自分たちの街にこのような歴史があったことを知り、自分たちの住む街についての興味を広げ、社会科の地域についての学習に、一層意欲的に取り組むことができました。

作成者の話：岐阜大学教育学部附属小学校
5年 尾崎 太一

ぼくが住んでいる羽島郡笠松町と学校のあ
る岐阜市加納、そして岐阜城。3つの場所は、
長良川でとれたあゆをお鮎にして江戸まで運
んだ「鮎鯨街道」で結ばれていることを祖父
から聞きました。ぼくは、街道の歴史につ
いてもっと知りたいと思い、調べて地図をつ
くることにしました。

実際に鮎鯨街道を自転車で走り、目で見て、
昔のものを写真に撮りました。また、年代別
の土地利用図を調べました。そこから、街道
のおかげで早くから町が発展してきたことが
わかりました。

また、^{うしじょう}鵜匠さんに会い、昔ながらの鮎鯨を
食べさせてもらったり、鮎鯨問屋の子孫の方
から貴重な話を聞いて調べたり考えたりした
ことを地図に表しました。

この地図は、街道を何気なく歩いていた自
分を、はるか昔にタイムスリップさせ、その
時代を案内してくれます。